

# やさしい野菜づくり

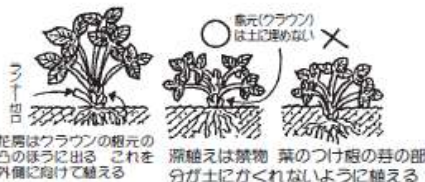
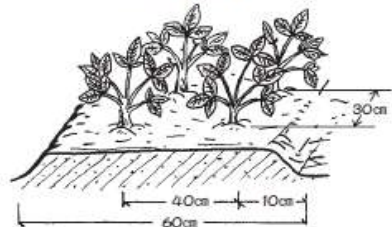


# イチゴ

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トンネル栽培												

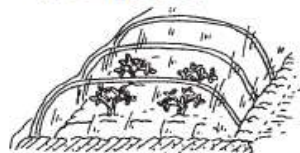
○ 植えつけ   □ トンネル被覆   ※※※ 収穫

## 植えつけ



花房はクラウンの根元の凸の縁に出る。これを外側に向けて植える。  
 原植えは禁物。葉のつけ根の部分が土にかかれないように植える。

## トンネル被覆



有孔ポリを使ってトンネル被覆をする(空春雪どけ後)  
 日中の気温は25℃を目安にすずろ換気する  
 4月下旬頃から白カンレイシヤに切り換える

## 追肥



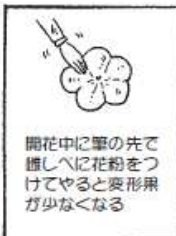
追肥1回目は定植後20~30日を目安にする。2回目は空春雪どけ後、施す。

## 下葉がき



株元の老葉や枯れ葉を入念にがき取る

## 収穫



開花中に筆の先で植しへに花粉をつけてやると変形果が少なくなる

## 育て方のポイント

生育適温 18~20℃  
 イチゴの肥大適温 17~20℃

- ①畑の準備**
  - 定植前までに石灰と堆肥を施し、耕しておく(ただし、石灰と堆肥は同時施用しない)
  - 石灰と堆肥を施し、耕した後、基肥を施して深く耕し、十分土になじませる
- ②植えつけ**
  - うね幅80~100cmとし、2条植え、株間30cm、条間40cmに定植する
  - 根元のふくらんだ部分(クラウン)を土の中に埋め込まないように定植する
  - 10月上旬までに定植する
- ③摘葉**
  - 雪どけ後に、前年の古葉や枯葉、病葉を取り除く
- ④摘花**
  - 果実の発育をよくするために果梗が細くて、ツボミが小さいものを摘み取る

## ワンポイント

- 植えつけは苗の向きをよく確かめて、花房が外側に向くように植えると果実が通路側になり、収穫が便利になる
- 12月10日頃までに本葉8枚、クラウンの大きさ1cm程度を確保する
- 雪どけ後に6枚の本葉を確保するため、不織布をべた掛けしておくといよい
- 不織布は雪どけ直後に除去する

## 施肥例(1㎡あたり)

肥料・堆肥	基肥	追肥	備考
舌土有機化成特A801	80g	20~30g	10月下旬に第1回追肥(20g) 2月中旬に第2回追肥(30g)…雪どけ後
舌土石灰	120g		定植前までに全面に散布し、土とよく混ぜる
コンポストエース	2kg		